

森川正雄の幼児教育課程論

水 田 聖 一

奈良女子高等師範学校教授、同附属幼稚園主事、保姆養成科主任として大正から昭和にかけて活躍した森川正雄は、当時隆盛を極めていた東京女子高等師範学校教授、同附属幼稚園主事、保育実習科主任であった倉橋惣三とは違った形で今日の保育理論に大きな影響を与えた。彼の教育方法論、教育課程論は、当時においても斬新なものであったが、今日でさえ示唆に富むものが少なくない。何が現代においても通じる視点なのかを明らかにするのが本論の目的である。

高等学校家庭科における住宅事情・住宅問題・住宅政策分野 の特性

——学習指導要領での位置づけの変遷——

宮 崎 陽 子

本研究では、高校家庭科学習指導要領での住宅事情・住宅問題・住宅政策の学習の位置づけの変遷を整理し、住宅事情等との関連で特性を明らかにすることを目的とした。主な結果は以下のとおりである。(1) 1949年の指導要領では住宅問題等に関する記述が豊富で、生徒を住宅・住環境改善の主体者と位置付けていた。(2) 昭和30年代は高度経済成長に対応した能率性の学習が中心で住宅問題等の記述はない。(3) 昭和50年代は「住宅問題」の言葉や関連記述が登場している。(4) 平成期は4単位科目に記述があるが全く記述のない時期もあり、2単位科目の「家庭基礎」では全く記述がない。今後は、指導要領の教科書への影響を分析し、住宅問題等の学習内容についての考察を深めたい。

「メタボ神話」の科学的合理性の再検討

岡 井 康 二・岡 井（東）紀代香

現在、我が国の厚生行政において国民の健康診断や治療方針の基本となっている「メタボリック・シンドローム」の考え方とその基準についていくつかの問題点と今後の改善点について検討した。特に腹囲・BMI値・コレステロール値などの基準値のそれぞれの問題点について日本と海外の基準値を比較し、この問題に関するこれまでの実際の疫学的研究や栄養学的研究の結果などを比較検討した。さらに生体内の様々な有用生理活性物質の生産に必要なコレステロール代謝の生物学的意義について具体的な例を説明し、さらにスタチン系薬剤などによるコレステロール合成の抑制による副作用・弊害などについて説明した。またメタボ検診の費用対効果やメタボ対策の中であまり重要視されていないがんの発生率や禁煙対策の有効性を説明し、科学的合理性に基づいた医療（EBM）と患者の人権とQOLの向上の視点の重要性について議論した。

協働的學生支援に伴うサイコロジカルアプローチ

向 出 佳 司

昨今、日本心理臨床学会や全国学生相談学会において、『カウンセリングマインド』を基底とした「教職員の学生対応」や「90分の授業構築」「発達障害や精神疾患を伴う学生像の開発的・予防的・治療的支援のあり方」等が頻繁に問題提起されている。そこで今回は筆者自身が、学生カウンセラーやスクールカウンセラーのスーパービジョンにてコメンテーターとして提示した緊要課題の一端を「研究ノート」として紹介したい。

まず第1に「カウンセリングマインドを踏まえた学生支援の举措」として(1)カウンセリングマインドとは何か (2)カウンセリングマインドの社会的・時代的背景 (3)カウンセリングマインドの学際的解釈 第2に「Content (文面) からContext (文脈) への共感的人間理解」として(1)来談傾向の今日的潮流 (2)自己を「伝える」から他者の「伝わる」へ (3)ヒューマンスキルアップの具体的エクササイズ 第3に「Secret (秘密性) からConfidential (内密性) への学生支援と危機管理」として(1)学生相談の多元化と重層化 (2)学生相談のプロセス支援上の論理と倫理 (3)全学スクラム体制における協働・連携システムと危機管理のストラテジーとタクティクスについて略述する。